



協定書を交わす小原理事長(右)と徳永町長

## さまざまな分野で連携

町と玉川学園が包括連携協定を締結

町は5月22日、玉川大学などを運営する玉川学園(小原芳明理事長)と包括連携協定を締結しました。調印式は東京都町田市の同学園で行われ、学園側からは小原理事長や石塚理事、小野農学部長など、町からは徳永町長、八幡町議会議長などが出席。小原理事長は「学園全体との今後の連携や、晴耕塾を活用した町内での活動に期待している」と話し、徳永町長は「玉川大学にはブドウ栽培や環境研究などの面で多大なご協力をいただいております、今後もさらに発展させていきたい」とあいさつしました。

1973(昭和48)年7月から美留和に実習農場を開設している同学園。2010年には、町と玉川大学農学部が農業や自然環境の分野での連携協定を締結しています。昨年12月、農場内に学生の研修・宿泊施設である晴耕塾が完成したことを契機に、学園全体と包括連携協定を締結することとしたものです。

同学園は、幼稚園から大学まで各年代の学校を運営。大学には、農学部をはじめ文学部や教育学部、観光学部などがあり、今後の各分野での相互連携が期待されます。

### 町の話



### 町の話

## 緑あふれるまちに花いっぱい運動

日の出自治会(塩沢紀雄会長)の皆さんが6月14日、国道391号から摩周駅前に向かう交差点のロータリーで花壇への植栽を行いました。毎年この時期に行っているもので、約20人が参加。サルビアやマリーゴールドなどを丁寧に植えました。



弟子屈町花いっぱい運動推進会(会長・上村剛志商工会青年部長)などの皆さんが6月20日、国道243号沿い鈴蘭地区交差点付近で「弟子屈町花いっぱいフラワーロード」事業を行いました。商工会青年部・女性部などが中心となって組織し、毎年行っています。この日は花苗の植栽を実施。10月まで、除草や清掃なども行います。



屈斜路自治会1区(加藤正区長)の皆さんが6月9日、古丹花いっぱい運動を行いました。訪れる皆さんに花を楽しんでほしいと行っているもので、今回で2回目。11人が参加して、古丹のバス停周辺の沿道を花で飾りました。



摩周フラワーマスター協会(渡邊昇会長)の皆さんが6月11日、役場庁舎前と役場駐車場入り口の花壇に植栽を行いました。皆さんに花を楽しんでほしいと毎年行っているもので、今年で21回目。15人が参加して、サルビアやマリーゴールドなど約600株を手際よく植えました。



湯の島自治会(野田口昌明会長)と役場管理職、役場職員OBで構成する「町友会」(小林壽男会長)の皆さんが6月14日、摩周温泉公園に1,500株の花の苗を植えました。皆さんが利用する公園をきれいにしたいと毎年行っているもので、54人が参加。ペゴニアやマリーゴールドなどを手分けして植えました。



## 地域ビジョン策定に向けて

南弟子屈地域活性化協議会のワーキンググループ会議

南弟子屈地域活性化協議会(会長・小澤重則南弟子屈自治会長)の第1回ワーキンググループ会議が5月27日、旧昭栄小学校で行われました。同協議会は、住民主体の地域づくりを目指して4月に設立。同校を拠点に、地域の将来像と行動計画の策定に向けた活動を行います。

会議には、同協議会の助言者を務める山田桂一郎氏(町まちづくりアドバイザー)も参加。会議を進めるリーダーに小澤会長が選任され、本格的な活動が始まりました。今後は、6月1日に着任した地域おこし協力隊の炭田晃希さん(2ページ参照)も参加し、来年3月をめどに将来ビジョンをまとめることにしています。



意見交換を行う参加者

## 地域の役に立ちたい 社会貢献いろいろ

辻谷建設(辻谷智之代表取締役)と同社の協力会社5社の皆さんが6月5日、川湯温泉街を流れる湯川排水路周辺で、管理道路の立ち木の伐採や草刈りなどを行いました。川湯温泉を訪れる観光客を気持ちよく迎えたいと毎年行っているもので、今年で5回目。40人が参加し、約500メートルにわたり丁寧に作業を行いました。



明盛建設(藤田利道代表取締役)の皆さんが6月8日、奥春別小学校の環境整備を行いました。11人が参加し、フェンスの補修や校舎裏の砂利敷きなど、丁寧に作業を行いました。



クニオカ工業(今誠代表取締役)と株今道東建設工業(同)の皆さんが5月23日、町道町営牧場1号線と町道釧路川右岸沿線のごみ拾いを行いました。毎年行っているもので、今年で7年目。50人が参加しました。今代表取締役は「年々ごみの量も減少し、成果が上がってうれしい。今後も継続したい」と話していました。



株今道東建設工業(今誠代表取締役)の皆さんが6月3日、町営牧場の道路支障木の枝払いを行いました。6月18日には、町営牧場内の町道で、ごみ拾いも行っています。





毛並みなどを丁寧に審査

## 自慢の牛馬を競い合う

### 第63回弟子屈町家畜共進会

町とJA摩周湖の共催の第63回弟子屈町家畜共進会が6月8日、鎧別家畜共進会場で行われました。

今回は、乳牛の部に7戸の酪農家が32頭の乳牛を、馬の部に7戸の馬飼養者が12頭を出陳。多くの牛馬が観客を魅了しました。審査は、乳牛を北見市の酪農家・山内誠さん、馬を釧路農協連生産振興課長の齋藤晃一さんが担当。熱の入った審査が行われました。

主な審査結果は次のとおりです。

▼乳牛の部

▼グラントチャンピオン／インレットグリーン メイン ダイアナ(江上和彦さん所有)▼リザーブチャンピオン／グリーンクエスト アフターインクス(坪井秀明さん所有)▼ジュニアグラントチャンピオン／ハッピーランド ダンディー エレディア(吉田雄貴さん所有)▼ジュニアリアザブチャンピオン／ハッピーランド スパークリング ブルーナイト(吉田雄貴さん所有)

▼馬の部

▼最優秀賞／ミラクル ユーカ(藤田千代さん所有)



丹精込めて育てた馬を出陳

## 未来に森をつなごう

### 弟子屈町植樹祭 エア・ドウ絆の森植樹祭



手分けしてエゾヤマザクラを植樹(エア・ドウ絆の森植樹祭)

6月6日には、エア・ドウ絆の森(釧路(弟子屈)植樹祭が美留和の町有林で行われました。(株)AIRDO(エア・ドウ)が行う社会貢献事業の一環として行われたもので、同社社員や地域の方など約120人が参加。エゾヤマザクラ600本を植樹しました。植樹は、2017年度までの3カ年、同地区で行われます。

6月4日、弟子屈町植樹祭(森林は自然の貯金箱)が6月4日、摩周3丁目の町民農園横で行われました。緑のふるさとづくりを目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年開催。(株)ニトリの協賛、(株)ツーリズムてしが、今井林業(株)からの寄附、摩周建設事業協会からの苗木の寄贈を受けました。今年は、卒業記念植樹として参加した弟子屈小学校の6年生ほか、自治会関係者など133人が参加。苗木が大きく成長することを期待しながら、エゾヤマザクラなど134本を植樹しました。また、緑化推進に長年功績のあった今井林業(株)(西村良雄代表取締役)に感謝状が贈られました。



大きくなれと願いを込めて(町植樹祭)

弟子屈町植樹祭(森林は自然の貯金箱)が6月4日、摩周3丁目の町民農園横で行われました。緑のふるさとづくりを目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年開催。

### 町の話



### 町の話

## 景色を楽しみながら清掃

### 摩周湖クリーンウォーク2015



協力し合ってたくさんのごみを回収

弟子屈町未来こども協議会(黒厚子会長)の会員がお茶のサービスを行いました。環境月間(6月)の全町の行事として定着した摩周湖クリーンウォーク。今後も末永く継続していきたい取り組みです。



道路脇のごみも丁寧に

町主催の「摩周湖クリーンウォーク2015」が6月13日、町内各地の国道や道道沿いで行われました。

摩周湖周辺の環境保全対策や自然の番人宣言事業、シーニックバイウェイ弟子屈エリアの活性化事業の一環として行われているもので、今年で10回目。一般参加の町民の方や小中学生、園児のほか、事業所などから709人が参加しました。社会貢献活動として10年連続参加している弟子屈町建設業協会(辻谷智之会長)も参加しています。参加者は20のグループに分かれ、摩周湖や川湯温泉、仁伏などの8コース全70キロをウォーキング。空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを560キロ集めました。また、川湯地区では、特定外来種オオハンゴンソウの駆除も行いました。今年も、弟子屈町建設業協会がトイレカーを2台提供したほか、

### 町の話



### 町の話

## まちの活性化策探る

### 弟子屈高校3年生総合学習



まちづくりについて考える生徒たち

生徒は、まちづくりについては9月に町へ提言を行うこと、観光については8月の観光甲子園に出場することを目指しています。

生徒は、まちづくりについては9月に町へ提言を行うこと、観光については8月の観光甲子園に出場することを目指しています。

まちづくりについて考える生徒たち

6月4日に役場を訪れた生徒は「まちづくり」と「観光」の2グループに分かれて、役場の担当者から説明を受けました。担当職員は、人口減少や少子高齢化が進む本町の現状を説明。対策として、自然環境を生かした産業振興や企業支援などによる雇用創出、UターンやIターンなどの移住促進に力を入れていると話し、生徒は熱心に聴き入っていました。生徒からは、大学の誘致や環太平洋連携協定(TPP)への参加などについて質問がありました。

弟子屈高校(木村浩士校長)の3年生が、総合学習「地域研究」の一環で役場や企業を訪問。まちづくりや観光振興策などを探りました。

地域研究は、ふるさとの自然や文化、歴史などに対する理解を深めようとして行っている。今年度は「高校生が考える弟子屈町の未来に関する町への提言」をテーマに取り組み、意見などをまとめる予定です。



観光について担当職員から説明を受ける生徒